

がん哲学外来ナース部会 始めました

ニュースレター 2014. 12 VOL.1

「がん哲学外来ナース」ニュースレターの創刊を祝して

「がん哲学外来ナース」～丁寧な、心優しい、本質的な人間～

この度、「がん哲学外来ナース」部会が『「しっかりとした土台」、「しっかりとした骨組」、「しっかりとした使命感」を持った、「杭となり、羅針盤」となる「医療の隙間」を埋める「ナースの育成」を目指すものとして発足された。「高尚な理念」であり、歴史的快挙である。まさに、「医療のあらゆる行動に普遍性の烙印を押す、教養ある、本質的な人間教育の見直し」の場でもある。その手段は、「目的は高い理想に置き、それに到達する道は臨機応変に取るべし」（新渡戸稲造）である。これこそ「がん哲学ナース」の心得であろう。「がん哲学外来ナース」部会は、日本国の「医療維新」の舵取りなる予感がする。その広報誌として、「がん哲学外来ナース」ニュースレターが発行されることは極めてタイムリーである。

がん哲学外来ナース部会顧問 樋野興夫

代表あいさつ

私は2009年に濾胞性リンパ腫と診断され、2013年に再発、治療を経て現在に至る外来勤務のサバイバーナースです。2013年2月よりがん哲学外来 OCC（お茶の水）メディカルカフェに患者として参加させていただき、「病気であっても病人ではない」という先生の言葉に涙があふれました。病棟勤務出来る体力が戻らず、自分の体験を患者さんの看護に生かせず悔しいという私に、樋野先生は「だったらここ（がん哲学外来カフェのスタッフとして）でやればいいじゃない」という処方箋を下さいました。

「がん哲学外来ナース部会」が発足しました。サバイバーナースも健康なナースも一緒になって「医療の隙間を埋める」ために活動していきます。参加される皆様と共にがん患者さんと家族に寄り添い、がん哲ナースとして少しでもお役に立てればと考えています。どうぞ宜しくお願いいたします。

がん哲学外来ナース部会代表 上杉 有希

コラム ～「私、がん哲学外来ナース部会に入りました」～

がん哲学外来ナース部会立上げは、看護師でがん患者でもある上杉さん（代表）と安楽さん（世話人メンバー）がメディカルカフェに参加するうちに、がんになったナースとして出来ることはないかとの熱い思いから始まりました。メディカルカフェに2年以上参加していた私ですが、当初「ナース部会という枠組みは必要ないのでは？」と考えていました。ところが、ナース部会メンバーの皆さんの熱心な思いを聞いているうちにいつの間にか「お手伝いする！」と言っていました。まさに樋野先生のおっしゃるところの「お節介症候群」ですね。

これからがん哲学外来ナース部として全国にいらっしゃるナースに呼びかけることにより、新たな発見や出会いがあるのではと期待しています。「人生いばらの道にもかかわらず宴会」、「がん哲学外来ナース部会」という新しいカフェの始まりです。

がん哲学外来ナース部会世話人メンバー 青木美由紀

<お知らせ>

「歯をくいしばって人を褒める

～あなたはどこにいるのか?～」

がん哲学外来ナース部会

第1回シンポジウム

2015年 6月27日(土)

14:00～16:30

会場：東京都新宿区西新宿3-7-1

新宿パークタワー23階

エーザイ株式会社 会議室

お問い合わせ

gantetsuns@yahoo.co.jp

<編集後記>

「わずかずつ加えることを繰り返していけば、やがて大きなものになる」（ヘシオドス）
がん哲学メディカルカフェに参加していた看護師達の小さな輪がナース部会という芽を出しました。全国の看護師の皆様との交流が「癒しの花」として全国のがん患者様のもとに届けられる日を願います。

By 大塚聡子（ナース部会副代表）

